

新しい高付加価値の不織布製品を展示

— グローバルな環境対応性と機能性 —

倉敷繊維加工(株)取締役 東京支店長 見上 隆志
企画開発部 部長 近石 尚樹

ブース番号 A414

今回は当社のオリジナル技術から生まれた機能性不織布製品群とその応用例を紹介する。これらは世界水準の環境対応性と機能性を有し、当社が自信を持ってお届けできる製品である。

さまざまな機能性と、化学的・生物学的な汚染の除去や環境負荷の軽減などに視点を置いた、高付加価値の不織布開発の成果を示すことが、われわれが新たに目指した展示テーマである。

多彩で実用的な機能性不織布を展示

(1) 電子線グラフト重合を利用した化学反応性不織布

日本原子力研究開発機構と当社が共同開発している機能性不織布である。今回はより具体的な商品展開を狙い、クリーンルーム用ケミカルフィルターおよび水中の金属イオン除去フィルターなど、エンドユースに近づけたカートリッジ形に加工したものも展示する。

(2) 環境対応型ノン・ハロゲン難燃不織布

ハロゲン系や有機リン系難燃剤を使わない、無機系の難燃システムを利用した不織布。自動車・家電用途の環境規制に対応する製品である。

(3) エアフィルター用高度帯電・低圧損不織布

予め繊維一本一本に高度帯電処理した繊維を用い、低圧損で高効率を実現したフィルター向け素材である。

(4) 透湿防風性アパレル用不織布芯地

透湿防水性に優れたデュポン社のアクティブレイヤーフィルムと、

倉敷繊維加工の実績ある不織布接着芯地技術の複合から生まれた高機能芯地“クランボン フェイスフォーム”。アパレル製品のムレ防止、着心地改善などをもたらす。

(5) 生分解性不織布とその応用

デュポン社の加水分解性/生分解ポリエステル“Biomax®”を使用した「クラボウ“バイオネチャー®”」ブランドで展開中の不織布接着芯地、および生分解性の糸を使用したボディータオルの紹介。“Biomax®”はポリ乳酸系の生分解性繊維に比べ、風合いが非常に柔らかく染色が容易などの特長がある。

(6) 光触媒機能不織布とその応用

東京大学先端科学技術センターと(株)富士通研究所が共同開発した「チタンアパタイト“PHOTOHAP”」を使用した、機能性不織布などを紹介する。抗菌性を持つマスクなども展示する。今回の展示に際しては機能性、高付加価値で差別化を図れる6つの製品を一堂に展示したいと考えた。

展示のもう一つの共通項は環境である。環境や人体への負荷を軽減を切口にした不織布づくりを目指していることを提示したい。

また今回は、最終製品でなく中間素材としての不織布そのものの展示を主体とした。これは、他の基材をもつ不織布メーカーにも使って頂きたい、複合化のためのコラボレーションで製品づくりをしませんか、というコンセプトによる。

当社の製品が海外からも関心を



近石尚樹部長 見上隆志取締役

もたれたら幸いである。われわれには「ものづくりは日本で」という基本路線はあるが、輸出先拠点での仕上加工もスタディしている状況なので、ANEXが海外企業との交流のきっかけになればと期待している。

「日本らしさ」を示す

業界全体として、日本で開催される展示会には「日本らしさ」が出ると思う。欧米の展示会では機械メーカーが主体になり、各製法をドッキングさせた大掛かりなプロセスで新しい素材をつくらうという潮流がある。中国の不織布メーカーが量産すれば単純な品種では対抗できないという考えからだろう。欧米企業のドラスチックなM&Aも影響しているようだ。

日本ではそこまで大掛かりにできないが、逆にきめ細かさを発揮して、少量でも良さがピカッと光る素材をつくる能力を日本企業の特長にできるのではないか。日本だけの技術を示せるなら、日本で展示会を開く意義もはっきりできると思う。

もう一つ、日本の高品質の背後にあるものを示せたらとを感じる。製造環境のクリーン性や品質管理など、現場のクオリティの高さを示すことができれば、日本の不織布はトータルでより評価されるのではないかと。

当社が掲げた「グローバルな環境対応性と機能性」には、日本のスタンダードできちんと製品をつくれれば、それは世界に通用するものになる、という意味合いも含まれている。